

114
A2357
1



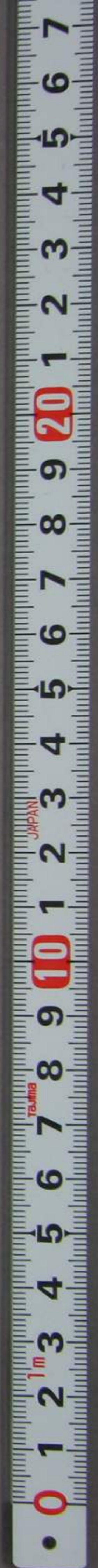
鐵道會社ノ性質及ヒ其創立ノ

大正十一年四月
法務省
侯爵郵寄
贈

鐵道會社ノ性質

テ復タ喋々并説スルヲ待タスト虽モ之ヲ架設スルニハ
鉅力ノ資金ヲ要スルカ故ニ能ク一人一己ノ力ヲ以テ之ヲ
設施スルコトヲ得ルモノニ非ス必ス他人ト共ニ同心協力シテ
其事ノ業ヲ興起セシムルハ可ラス是レ我輩ノ鐵道
會社ヲ創立セント欲スル所以ナリ

第二條 鐵道會社ハ所謂無名會社(社員ノ姓名ヲ
以テ會社ノ名称トナサシテ會社ノ目的ト為ス所ノ
事業ヲ以テ其名稱ト為スモノヲ云フ)ナルモノニシテ純
然タル資金會社ナリ故ニ本社ノ資本金ハ之ヲ株數



ニ分チ數百人ニ配付ス可キモノニシテ其株主(即チ社
員タル者ハ本社ニ供シタル株金ヲ除クノ外會社ノ
義務ヲ一身ニ擔當シテ無限ノ責任ヲ有セサルモノ
トス

第三條 凡ソ商法會社ハ法律上ニ於テ一箇ノ
人ト看做ス可キカ故ニ或ハ所有者トナリ或ハ債
主トナリ或ハ負債主トナル可キモノニシテ其財産ハ
會社ノ繼續スル間ハ社員ノ私有ニ非スシテ社員ノ
側ニ在ル無形人(即チ會社)ニ屬ス可キモノナリ
故ニ會社ノ財産ハ會社ノ債主ノ為メニ特別ノ抵
當物ニシテ會社ノ負債ヲ拂フ可キモノタレハ各自
社員ノ債主ハ會社ノ他ノ債主ト同一ノ權利ヲ

以テ其會社ノ財産ヲ分ツコトヲ得ス又會社ノ
利益金並ハ社員ノ株數ニ應ジテ分配ス可キモノ
タレハ社員中ノ一人若クハ數人ニシテ之ヲ專有ス
ルコトヲ得ス

第四條 前條ニ云ヘル如ク商法會社ハ一箇ノ
人タル性質ヲ有スルヲ以テ特定ノ法式ニ循フ
ニ非サレハ之ヲ創立スルコトヲ得ス今我カ鐵道會
社モ亦一箇ノ商法會社タルカ故ニ之ヲ創立スル
ニハ必ス先ツ其願書ヲ官府ニ出シ更ニ創立
証書及ヒ會社ノ規則ヲ進呈ス可キ諸般ノ成
規ヲ遵奉センコトヲ要ス

鐵道會社創立ノ方法

發起人ノ事

第五條 鐵道會社ヲ創立スルニハ必ス先ツ同心協力シタル七人以上ノ發起人ナカル可ラス而シテ此ノ發起人ハ株金ノ募集并諸役負ノ撰挙等ヲ整頓スルニ至ル迄ハ總テ本社ノ事務ヲ擔當弁理ス可キモノトス

第六條 發起人ハ先ツ本社創立ノ旨趣ヲ願書ニ記メ之ヲ官府ニ上呈シ其命ヲ受ケタル後更ニ其他ノ方法ニ着手ス可シ

第七條 本社ノ資本金ハ之ヲ株數ニ分ツ可キニ因リ假リニ資本金ノ總額ヲ以テ三百萬圓ト為シ之ヲ三千株ニ分チ一株ヲ以テ金

壹千圓ト定ムル時ハ發起人ニ於テ先ツ自ラ六百株即チ六十萬圓ヲ準備シ其余ノ二千四百株即チ二百四十萬圓ハ會社創立ノ許可ヲ受ケタル後之ヲ他人ニ分付スルヲ得可シ

第八條 發起人等ノ擔當ス可キ資本金ノ五分一即チ六十萬圓ハ會社創立ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ遲クモ三月内ニ會社ノ創立證書及ヒ其規則ヲ官府ニ進呈シ更ニ開業免狀ヲ下付セラレタル後未タ其業ヲ始メサル前ニ之ヲ官府ニ預ケテ以テ鐵道架設ノ費用ニ供ス可ク其余五分ノ四即チ二百四十萬圓ハ之ヲ月賦ニ定メ漸次ニ之ヲ官府ニ供シテ該費ノ全額

ヲ充足ス可シ而シテ其月賦入金ノ方法ハ即チ
左ノ如シ

但シ發起人ヨリ先ツ六十万円ヲ官府ニ預ク
ル時ハ官府ニ於テ必ス公債証書若クハ其他
ノ手續ヲ以テ相當ノ利子ヲ下付スルコト有ル
可シ此ノ利子ハ即チ本社ノ純益金ニシテ之ヲ
各株主ニ分配ス可キモノナレド姑ク之ヲ以テ
會社創立其他ノ費用ニ供ス可シ

資本金月賦入金ノ方法

第九條 本社資本金總額五分ノ一ハ開業免
狀ヲ受ケタル後直ニ各發起人(若クハ各株主)
ヨリ之ヲ本社ニ入金ス可ク其餘ノ五分ノ四ハ

之ヲ月賦ニ定メ十二月ニ割賦シテ開業ノ翌月ヨ
リ毎月總額十五分ノ一宛ヲ入金ス可シ例ハ資本
金ノ總額三百万円ニシテ開業前ニ入金ス可キ金
額六十万円ナレハ其翌月ヨリ十二月間毎月入金ス
可キ金額ハ即チ二十万円ニシテ既ニ十二月ヲ経レハ
總計三百万円トナルカ如シ

資本金ノ月賦ハ右ノ如ク開業ノ翌月ヨリ算
起シテ十二月間毎月入金ス可キモノナリト
雖モ開業前若クハ十二月前ニ資本金ノ總
額ヲ全ク入金スルハ各株主ノ隨意タル可シ但
シ本社ニ於テ右月賦入金ヲ請取リタル片ハ
左ノ請取証書ヲ其株主ニ渡ス可シ

印割

第何回月賦入金請取証書
一金何回也

右ハ鉄道會社株數、内何番或ハ何番ヨリ
何番迄何株ノ第何回月賦ニシテ一株ニ付
一千円ノ割合ヲ以テ書面ノ通リ入金相成
正ニ落手致候右株裏証書ノ儀ハ追テ總
月賦入金相濟候上ニテ交付可致候仍テ後
証ノ為メ如件

年号月日

鉄道會社支配人

鉄道會社
印章

同

頭取

姓名印
姓名印

何某宛

株金募集ノ方法

第十條 本社ノ株金ヲ募ルニハ新聞紙其他ノ手
續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告ス可シ其文例左ノ如
シ

今般同志輩互ニ相協議シ釀金ノ方法ヲ
設ケ假リニ資本金ノ總額ヲ三百万円ト定メ
之ヲ三千株ニ分ケ其一株ヲ一千円ト為シ、
下第一大區、小區、町番地ニ於テ鉄道會社創
立候ニ付該社ニ加入セント欲スル諸君ハ一月
日迄ニ一町番地ニ來臨シテ結社ノ方法及ヒ
規則等ヲ檢閲アラントス

年号月日 鉄道會社發起人

何誰

第十一條 約定ノ日ニ至リテ該社ニ加入セント欲スル者アレハ發起人等ハ其入社人ノ姓名并其入金ス可キ金額ヲ本社ノ簿冊ニ登記シ且ツ一年一月一日迄ニ入金マ可キ約束ヲ確定シテ之ヲ附記ス可シ

第十二條 右入金約定ノ日ニ至リテ入社人ヨリ其約定シタル金額ヲ入金シタルハ發起人等ハ其金額引換ニ入金請取證書ヲ交付ス可シ
入金請取證書ノ雛形
入金何円也

印割

右ノ金額ハ今般創立セル鉄道會社株數ノ内何株ノ何分トシ一株一千円ノ割合ヲ以テ入金相成正ニ落手致候右株數證書ノ儀ハ追テ總月賦入金相濟候上ニテ交付可致候仍テ為後証如件

年号月日

鉄道會社發起人

連名印

何某殿

株主總會議ノ事

第十三條 本社ハ所謂無名會社タルヲ以テ株主ノ總會議ハ即チ本社ノ事務ヲ支配ス可キ一大原素タリ故ニ本社ヲ創立ス為メニ必要

ナル諸般ノ方法及ヒ成規ヲ履行シ既ニ株主
タル者ノ一定シタル上ハ直ニ初期ノ總會議ヲ
為シ其會議ニ於テ發起人ノ申告及ヒ其
書類ノ実否ヲ検査シ初期ノ頭取支配人及
ヒ取締役等ヲ撰任ス可シ

但シ此ノ第一次ノ總會議ハ本社創立ノ許
可ヲ受ケシ日ヨリ遅クトモ三月以内未タ創立
証書及ヒ規則ヲ官府ニ進呈セサル前ニ於テ
ス可シ

第十四條 以上列記セル所ノ方法ニ從ヒ本社
ノ資本金ヲ入金ス可キ契約ノ既ニ整正ヒタ
ルコト其總額五分一ヲ入金シタルコトハ發起

人ノ公正ナル届書ヲ以テ之ヲ證ス可ク且ツ其
届書ニハ其契約ヲ為シタル者ノ姓名簿ト既
ニ入金シタル株金五分一ノ目録ト會社創立ノ証
書及ヒ其規則ヲ添ヘテ之ヲ官府ニ進呈ス可
シ

鐵道會社創立ノ証書并會社ノ規則ヲ
進呈スル方法

第十五條 此ノ創立証書及ヒ會社ノ規則ハ各
株主ノ連印シタル上頭取及ヒ支配人ノ記名
調印ヲ為シ且ツ之ニ売錢ノ印紙ヲ貼用シ正
紙一通副写二通ニ認メテ之ヲ官府ニ進呈ス可
シ但シ創立証書ニハ必ス地方長官ノ奥印ヲ要

414
A.285
2

~~414~~
~~A~~ 2
~~3~~

スト虽モ規則書ニハ地方長官ノ眞印ヲ要セズ
而シテ之ヲ進呈スルニハ會社創立ノ許可ヲ受ケ
タル日ヨリ(郵便通送日數ヲ除キ)遅クトモ三月
以内ニ於テス可シ若シ右期限内ニ之ヲ進呈セ
サル時ハ會社創立ノ許可ハ無効ニ屬ス可シ
但シ此ノ創立證書ハ本社ヲ創立スルニ就キ
緊要ノ證書ニシテ夫ノ本社ノ規則トハ自カ
ラ異ナル所アリ蓋シ本社ノ規則ハ全ク本社
株主等ノ規定シタル本社中ノ規則ニシテ政
府ト關係アル者ニ非ス

鉄道會社規則

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

大日本政府ニ於テ制定施行スル所ノ布告及ヒ
布達ヲ遵奉シテ鉄道會社ヲ創立シ以テ大
日本政府ノ鉄道架設ノ費用ニ供センカ爲メ
ニ株主等一同協議ノ上決定スル所ノ條款
左ノ如シ

會社名稱ノ事

第一條 本社ハ所謂無名會社タルヲ以テ其目
的ト爲ス所ノ事業ニ從ヒ之ヲ鉄道會社ト
稱ス可シ

本支店設置ノ事

第二條 當社ノ本店ハ(府)縣下第一大区ノ小區ニ於

テ之ヲ設置ス可シ

但シ本社ノ都合ニ因リ株主ノ總會議ヲ終
テ支店ヲ開設スル時ハ預メ其地名等ヲ詳
記シ官府ニ上申シテ其許可ヲ受ケタル後
ニ於テス可シ

資本金ノ事

第三條 本社ノ資本金ハ之ヲ三百万四ト定
メ壹千四ヲ以テ一株ト為シ總計三千株ト定
ム可シ

資本集金高届書ノ事

第四條 本社資本金ノ總額ハ之ヲ三百万四ト
定メ之ヲ三千株ニ分キ其五分ノ一即チ六十万

四ハ先ツ発起人ヨリ之ヲ準備シ其余四分、
一即チ二百四十株ハ之ヲ月賦ニ定ム可キニ因リ各
株主等ヨリ其株數ノ割合ニ從テ月賦金ヲ入
金シタル片ハ之ヲ完納スルニ至ル迄ハ毎月本社
ヨリ其資本集金高届書ヲ官府ニ出ス可シ
其文例左ノ如シ

資本集金高届書

何^府縣下第一大区一小区一^村番地ニ創立シタル鉄
道會社ノ資本金トシテ第一回月賦金一萬
一千四ヲ各株主ヨリ入金致候ニ付是迄ノ入
金ニ加シテ總額一萬一千四ニ相成候也

年号月日

鐵道會社支配人

姓名印

同 頭取

姓名印

官府宛

資本金増減ノ事

第五條 本社ノ資本金ハ本社ノ都合ニ因リ
或ハ之ヲ増加シ或ハ之ヲ減少スル一有ル可シ
但シ然ルハ毎次其証書ヲ製シテ之ヲ官
府ニ出ス可シ其文例左ノ如シ

資本金増加証書 何縣下第大區小區 鐵道會社

元株數并金額 總株數并金額 合計 何縣下第大區小區 鐵道會社

住所 姓名 何縣下第大區小區 鐵道會社

何縣下第大區小區 鐵道會社

何縣下第大區小區 鐵道會社

何縣下第大區小區 鐵道會社

合計 何縣下第大區小區 鐵道會社

右ハ今般新ニ株主ヲ募集シ資本金増加
仕候現額ニシテ書面ノ通相違無之候也

年号月日

鐵道會社支配人

姓名印

鐵道會社

同 頭取

姓名印

印章

官府宛

資本金減少証書 何縣下第大區小區 鐵道會社

減少株數并金額 現株數并金額 住所 姓名

住所 姓名

合 株 10

合 株 10

右ハ今般本社ノ都合ニ因リ資本金減少高
并残金ノ現額ニシテ書面ノ通り相違無之候
也

年号月日

鉄道會社支配人

姓名 印

同 頭取

姓名 印

官府宛

株主ノ事

第六條 本社ノ規則ヲ遵守シテ本社ノ株主タラン

ト欲スル者ハ其株金一千円以上若クハ該金額ニ當
レル公債証書及ヒ動産不動産等ヲ本社ニ供スル
ニ於テハ外國人ヲ除クノ外何人ヲ問ハス總テ本社
ノ株主タルヲ得可シ

但シ公債証書及ヒ動産不動産等ヲ以テ資本
ニ供スル者アレハ預メ其價直ヲ評定シテ之ヲ株
主姓名簿中ニ登記ス可シ而シテ之ヲ評定スルニ
ハ發起人ヨリ特ニ委任ヲ命シテ之ヲ検査セシ
メ該委任ノ検査セシ所ヲ發起人ノ會議ニ附
シ投票ヲ以テ其當否ヲ決ス可シ

株數証書ノ事

第七條 本社ノ株主タル者ハ各自ノ望ニ任セ幾

株ニテモ之ヲ所持スルコトヲ得可ク而シテ其所
持セル各株敷ノ金額全ク入金シタルニ於テハ每一
株ニ付社印ヲ鈐シタル株敷証書一通宛ヲ領受
スルノ権理ヲ有スルコトヲ得可シ其株敷証書ノ雛
形左ノ如シ

第何番

印寄 大日本一國一地域鐵道會社株敷証書

府 一縣下第一區一小区一柵一番地一某殿儀大日
本政府ニ於テ制定施行シタル布告布達等
ヲ遵奉シ且ツ本社ノ規則ヲ確守シ何年一
月一日ヨリ本社株敷ノ内一株即チ一千圓ノ持
主タルコト相違無之候仍テ其証據トシテ此

株敷証書ニ本社ノ印章ヲ押捺シ之ヲ附与
スル者也

但シ此ノ株敷証書ヲ賣却譲与セント欲セハ
之ヲ本社ニ持来ス可シ然ルキハ本社ニ於テ至
當ノ検査ヲ遂ケ此ノ株敷証書裏面ノ烏糸
欄内ニ本社ノ頭取及ヒ支配人ヨリ記名調印
ヲ為シ之ヲ本人ニ還付ス可シ

年号月日

鐵道會社頭取

姓名 印

同 支配人

姓名 印

鐵道會社

印章

年号月日	裏	面	頭取	支配人

第八條 若シ右ノ株敷証書毀損壞裂等ノコアル時ハ其旨ヲ書面ニ認メ其書換ヲ乞フ可シ若シ又燒亡紛失等ノコアルハ其事実ヲ明瞭ニ記載シ二人以上ノ証人ヲ立テ各之ニ記名調印シテ更ニ新製ノ株敷証書ヲ請取ランコトヲ求ム可シ但シ右株敷証書書換等ノ時ハ本社ノ指圖ニ從ヒ其手数料ヲ拂フ可シ

株敷賣買ノ事

第九條 本社ノ資本金タル株敷ハ頗ル簡便迅速ナル手續ヲ以テ之ヲ他人ニ賣渡スコトヲ得ル利益アルカ故ニ其株敷ヲ有スル者(即チ株主)ハ本社ノ繁栄スル間ニ其株敷証書ヲ他人ニ賣渡シテ其社ヲ退キ其金額ヲ以テ他ノ起業ニ充ツルコトヲ得可シ

第十條 株敷証書ヲ賣買スルニハ預メ其賣買証書ヲ製シ相當ナル証人ノ眼前ニ於テ其賣買人及ヒ買取人ノ双方記名調印ヲ為シ之ヲ其株敷証書ニ添ヘテ本社ニ差出ス可シ然ルハ本社ノ頭取及ヒ支配人ハ其願未コト本社ノ株敷賣買

簿冊ニ登記セシメ其株數証書ノ裏面ニ各記名
 調印ヲ為シ且ツ其賣買証書ト株數証書ト
 ノ間ニ割印ヲ押捺シタル上其株數証書ハ再ヒ
 之ヲ其本人ニ交付ス可シ(但シ右ノ手數ヲ終ル
 迄ハ姑ク賣渡人ヲ以テ右株數ノ持主ト定ム
 可シ)其株數賣買証書ノ文例左ノ如シ

株數賣買証書

何^府下第^一大區^一小區^一村^一番地ニ設立セル鉄道
 會社株數ノ内第^一番(或ハ第^一番ヨリ第
 一^番迄)ノ株數ハ何某(此ニ賣渡人ノ姓名
 ヲ掲ク)所持ノ分ニ候所今般代金一^四
 ニテ一某(此ニ買取人ノ姓名ヲ掲ク)ニ賣渡

シ書面ノ金額取引相濟候儀実正也然ル上
 ハ買取人ハ勿論其相続人及ヒ後見人ニ於
 テモ之ヲ所持シ一某(賣渡人ノ姓名)ノ所持
 セシ時ト同様ノ規約ヲ遵守ス可シ仍テ証書
 如件

年号月日

何^府下第^一大區^一小區^一村^一番地

賣渡人

姓名印

同

買取人

姓名印

同

証人

姓名印

鉄道會社 律中

株數譲与ノ事

第十一條 本社株主ノ内死去スル者アリテ其相続人若クハ後見人ヨリ其株數ヲ譲受ケント欲スルキハ本社ヨリ要求スル相當ノ証憑ヲ出シタル上ニテ本社ノ株主ト為リ株主姓名簿ニ記入セラル、コヲ得可シ

株數没入ノ事

第十二條 若シ本社ノ株主タル者其株金月賦入金ヲ怠リタル時ハ本社ニ於テ其株數ヲ没入シ競賣若クハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ賣拂ヒ其入金高ヲ除去シテ尚ホ余金アレハ之ヲ旧株主ニ還付ス可シ

但シ競賣等ニテ右株數ヲ買取リタル新株主ハ他ノ株主ト同一ノ權利ヲ有スルコヲ得可シ

株數消除ノ事

第十三條 若シ又競賣等ニテ右株數ヲ買フ者アラサル時ハ従前入金シタル金額ハ之ヲ本社ニ没入シテ其株數ヲ消除ス可シ

但シ此ノ株數ヲ消除スルニ由リ本社資本金ノ定額上ニ減少ヲ生シタル時ハ其事由ヲ詳記シタル資本金減少證書ヲ官府ニ出ス可シ
(此ノ文例前ニ出ツ)

株主總會議ノ事

第十四條 株主ノ總會議ハ本社ノ事務ヲ支配
スル一大原素タルカ故ニ本社ヲ創立スル為ニ必
要ナル諸般ノ成規ヲ履行シタル後本社ノ株主
タル者既ニ決定シタル片ハ直ニ第一次ノ總會
議ヲ為シ其會議ニ於テ初期ノ頭取支配人
及ヒ監察委負ヲ撰任ス可シ。

第十五條 第二次以後ノ總會議ハ少クハ毎年
二回必ス之ヲ開ク可キモノニシテ頭取支配人等
ヨリ指定シタル月日及ヒ場所ニ於テス可シ

第十六條 凡ソ總會議ハ定規及ヒ臨時ノ二種ニ分
テ第一月及ヒ第七月ノ總會議ヲ定規トシ其他
ハ總テ臨時總會議ト稱ス可シ

第十七條 會社ノ財産ヲ検査シ若クハ初期ノ
頭取支配人等ヲ撰任スル為メニ設ケタル總
會議ハ各株主ノ有スル株數ノ多ク少ニ関セス
總株主ヲ以テ之ヲ設ク可シ但シ其決議ヲ決
定スル為メニハ必ス本社資本金ノ半額ニ當
レル株數ヲ有シタル株主ノ出席アランコトヲ要ス
故ニ若シ該金額ニ充タサル株數ヲ有スル株主
ノ決議ハ之ヲ假定ノモノト為シ更ニ會社資本
金ノ五分一以上ニ當レル株數ヲ有スル株主ヲ以テ
會議ヲ設ケ此ノ第二次ノ會議ニ於テ第一次
ノ決議ヲ認許シタル後始メテ之ヲ確定ノモ
ト為ス可シ

第十八條 社則ヲ改正シ若クハ本社ヲ解散スル等ノコトアリテ招集シタル總會議ハ會社資本金ノ半額以上ニ當レル株數ヲ有ス株主ノ會合スルヲ以テ必要トス而シテ此ノ會議ニ於テ投言ノ多數ニ由テ確定シタル決議ハ總株主一同之ヲ遵守セサルコトヲ得ス

第十九條 凡ソ總會議ノ決議ハ各株主ノ投票ノ多數ニ役コ可シ故ニ總會議ハ少クモ總株主ノ四分一以上ノ人真若クハ四分一以上ノ株數ヲ有スル人真アルヲ必要トス若シ四分一ノ人真ニ充タサルハ更ニ第二次ノ會議ヲ招集シテ評議決定ス可シ但シ此ノ第二次ノ總會議ニ

於テ議定シタルコトハ其株主ノ株數本社資本金ノ幾分ニ當ルヲ問ハズ總テ議定ノ効アル可キモノトス

第二十條 凡ソ臨時總會議ヲ開クニハ極定ノ時日場所ヲ報告書ニ記載シ少クモ會日ヨリ七日以前ニ之ヲ總株主ニ通知ス可シ右ノ如ク手數ヲ為セシ上ハ假令株主ノ内右報告書ヲ領受セサル者アルモ總會議ノ手續ニ於テハ既ニ之ヲ盡シタルモノト為ス可シ

但シ本社ヨリ各株主ニ報告スル書類ハ之ヲ直達スルモ亦ハ郵便其他ノ手續ヲ以テスルモ總テ本社ノ便宜ニ任ス可シ

第二十一條 本社ノ頭取支配人若クハ監察委員ニ於テ臨時總會議ヲ招集スルヲ以テ適當ナリト思考スルカ或ハ十名以上ノ株主ニシテ其所有セル株數總株數ノ五分一以上ニ至ル者ヨリ臨時總會議ヲ請求スルニ於テハ何時ニテモ之ヲ招集スルヲ得可シ

但シ右株主等ノ請求ハ之ヲ書面ニ認メ其總會議ヲ招集スル所以ノ目的及ヒ事件ヲ詳記シ郵便及ヒ其他ノ手續ヲ以テ之ヲ頭取若クハ支配人ニ送達ス可シ

第二十二條 頭取及ヒ支配人ハ右ノ請求書ヲ受取レハ直ニ臨時總會議ノ招集ニ着手ス可シ

若シ頭取及ヒ支配人ノ右請求書ヲ受取リシ日ヨリ七日内ニ臨時總會議ノ招集ニ着手セサルハ其請求人等ハ自身ニ之ヲ招集スルヲ得可ク或ハ他ノ株主等ト相謀リテ之ヲ招集スルヲ得可シ

第二十三條 凡ソ總會議ニ於テ會社ノ事務ヲ評議決定スルニハ必ス總株主(本人又ハ代人共)ノ十分五以上ノ人眞出席スルニ非サレハ何事ヲモ決定施行ス可ラス

但シ利益金分配ノ報告ハ此限ニ非ラス
第二十四條 若シ總會議ノ刻限ヨリ一時間ヲ過キテ定式ノ人眞臨席セサリシ時ハ之ヲ其

會日ヨリ七日目ニ延會シ其會ト同一ノ場所
及ヒ刻限ニ於テ之ヲ関ク可シ

第二十五条 定式及ヒ臨時ノ別ナリ頭取又ハ
副頭取ハ會議ノ議長ニ任ス可シ

第二十六条 若シ右ノ議長タル者總會ノ刻限
ヨリ十五分時間ヲ過キテ猶ホ臨席セザリシ時ハ
總株主中ヨリ一名ヲ公撰シテ之ヲ議長ト為
ス可シ

第二十七条 凡ソ總會議ニ於テ議事ヲ決定
スルニハ投票ノ多數ニ從ヒ其決議シタル類ホ
ハ之ヲ本社ノ簿冊ニ登記シ議長ノ記名調
印ヲ付シテ以テ後日ノ参考憑據ニ供ス可シ

但シ總會議ノ投票其數相半スルハ議
長ノ助説投票ヲ以テ之ヲ裁決ス可シ

株主ノ發言投票ノ事

第二十八条 本社ノ株主タル者ハ各其所有
セル株數十箇迄ハ毎一株ニ付一箇宛ノ發言
投票ヲ為スコトヲ得可ク十一株以上百株迄
ハ五株毎一箇宛ヲ増加シ百一株以上八十
株毎一箇宛ヲ増加ス可シ

第二十九条 本社ノ役員タル者ハ他人ノ代理
トナリテ又發言投票スルノ権理ヲ有スルコトヲ得
ヌ又自己ノ負債ノ為メニ其株數證書ヲ本
社ニ質入シタル者ハ自身又ハ他人ノ代理ニ関

セス一切發言投票ノ権理ナカル可シ
第三十条 本社ノ株主タル者ハ本人若クハ其
代理人ヲ問ハス共ニ總會議ニ於テ發言投
票ノ権理ヲ有スルヲ得可シ但シ其代理
人ハ本社株主中ノ者ニ限リテ本人ヨリ之ニ
委任状ヲ付与ス可シ若シ本人其代理人ヲ
出サシルハ決議ノ後何等ノ異議アル氏決シ
テ之ヲ申立ルヲ得ス而シテ其委任状ノ雛
形ハ即チ左ノ如シ

委任状

何年一月一日 鉄道會社ノ定期又ハ臨時總
會議(若クハ其延會)ニ於テ何サホヲ拙

者ノ代理人ト為シテ發言投票為致候仍
テ委任状如件

年号月日

鉄道會社株主

姓名印

鉄道會社御中

諸役員ノ事

第三十一条 本社ノ役員ト稱スル者ハ左ノ如
シ

頭取

一人

支配人

何人 (内頭取一人)

監察委員

書記掛

一

出納掛

計簿掛

簿記掛

右ノ外本社ノ便宜ニ因リ或ハ之ヲ廢止シ若クハ之ヲ兼攝セシメ若クハ其他ノ役員ヲ設置スルヲ得可シ但シ監察委員ハ五人ヨリ減少ス可ラス故ニ右ノ定員ヨリ減少スル時ハ株主一同ノ協議ヲ以テ更ニ其缺ヲ補フ可シ

支配人ノ權限及ヒ其責任

第三十二條 會社ハ法律上ニ於テ一箇ノ人タル性質ヲ有スル者タルハ已レノ名代人ヲ撰

ヒ其社ノ名義ヲ以テ社中ノ事務ヲ支配セシメスニハ有ル可ラス此ノ名代人ヲ稱シテ支配人ト云フ故ニ會社ヲ設ルニハ其支配人タル可キ社員ヲ撰任スルノ規則及ヒ支配人ノ權限ヲ規定スルヲ以テ最大緊要トス

第三十三條 支配人ハ毎年第一月ノ總會議ニ於テ之ヲ撰任ス可ク若シ不意ノ欠員アル時ハ臨時總會議ニ於テ之ヲ撰任ス可シ

第三十四條 支配人ハ會社ノ為メニ諸事ヲ取扱ヒ或ハ其商品ヲ賣拂ヒ或ハ計簿書若クハ手形等ニ姓名ヲ記シ或ハ會社ノ為ス所ノ契約及ヒ會社ノ受ル所ノ訴訟等ニ付テ會

社ノ代理ヲ為スニ在リ但シ支配人ハ會社ノ代理人タルノ性質ヲ有スル者タルニ因リ會社ノ義務ヲ一身ニ擔當スルヲナク只其取結ヒタル契約ヲ會社ニ擔當セシム可キノミ

第三十五條 支配人ハ株主中ヨリ撰任セラレ給料ヲ受ク可キ者ニシテ其在職期限ヲ滿一年ト定メ退役免職等アルニ非サレハ期限中必ス在職ス可キ者トス但シ期滿ノ後ニ至リテモ更ニ入札公撰ヲ以テ累年再任スルヲ得可シト
虽モ再任シタル時ハ左ノ第三十六條及ヒ第三十七條ニ規定セル如ク更ニ誓詞ヲ為シ且ツ新任申告ヲ為ス可シ

第三十六條 支配人ニ撰任セラレタル者ハ直チニ誓詞ニ通リ認メ該地方長官ノ面前ニ於テ之ニ調印ヲ押捺シ本紙ハ之ヲ官廳ニ差出シ一通ハ之ヲ本社藏メ置ク可シ其文例左ノ如シ

支配人ノ誓詞

何^府下^第一^大區^一小區^一村^一番地ニ於テ創立シタル^{鐵道}會社支配人何某謹テ左ノ條款ヲ誓言フ

一私儀ハ何^府ノ華士族平民ニシテ^府下^第一^大區^一小區^一村^一番地ニ居住致候者ニ相違無之候事

一本社ノ事務ヲ処分スルニ付私關係ノ職掌

ハ成文忠実ニ取計可申候事

一私在職中ハ決シテ結社ニ関スル布告及ヒ布達等ノ旨趣ヲ犯ス間敷ク又他人ヲシテ之ヲ犯サセ間敷候事

一銀行条例及ヒ成規ニ規定スル所ニ後ヒ本社資本金中ノ三十株ハ私自力ヲ以テ所持致候儀相違無之候事

一右私所持ノ株數証書ハ条例及ヒ成規ニ後ヒ之ヲ本社ニ預ケ置キ私在職中ハ決シテ賣却譲与等致ス間敷候事

年号月日 何_府下第_一大區_一小區_一村_一番地

鉄道會社 頭取

姓名 印

此ノ処ニ地方長官ノ奥書及ヒ記名鈐印ヲ受ケ之ヲ官府ニ出ス可シ

但シ此ノ誓詞ハ頭取取締役等各一通宛ニス可シ

第三十七条 本社ニ於テ新ニ頭取若クハ支配人等ヲ撰奉シタルハ其新任者ノ印影ヲ添ヘ其旨ヲ官廳ニ申告ス可シ其文例左ノ如シ

新任者ノ申告

當_一年_一月_一日_一某儀ヲ鉄道會社ノ頭取ニ撰任シ_一某儀ヲ該會社ノ支配人ニ撰任致候其印鑑ハ別紙ノ通ニ候也

年号月日

鉄道會社

元支配人

姓名 印

元頭取

新支配人

新頭取

鉄道會社
ノ印章

官府宛

但シ第一次撰挙ノ時差出ス所ノ申告書ニハ
右文例中ノ元役ナキハ勿論タル可シ

印影雛形

用紙ハ美濃 竪七寸幅二寸

年号月日

何某代何役撰挙

一府 華士族平民

鉄道會社
ノ印章

印鑑

小印

姓名

何年 月

宿所 何府 下第 大區 小區 町 番地

第三十八条

頭取及ヒ支配人ハ總會議ノ決議ヲ

經社負若クハ社負外ノ者數名ヲ撰任シテ計

算及ヒ書記等ノ事務ヲ掌ラシムルヲ得可

ク且ツ別ニ本社ノ規則ニ禁セサル中ハ社外ノ

者ヲ以テ巴レノ代理人ト為スヲ得可シ但シ

社外ノ者ヲ代理人ト為シタル場合ニ於テハ

其名代人ノ所為ニ付テハ支配人自カラ其責

ニ任ス可シ

第三十九条

支配人ハ本社ノ事務ヲ支配ス

ルノ任アリト虽モ新ニ規則ヲ創立シ若クハ之ヲ更正シ若クハ之ヲ廢止シ若クハ之ヲ例ナキ出納ノ一ヲ処分スル如キハ株主ノ總會議ヲ經ルニ非サルハ之ヲ決定施行スルコトヲ得ス

第四十条 本社株數ノ内三十株以上ノ株數ヲ所持セサル者并一旦破産シタル株主ハ支配人タルコトヲ許サス

第四十一条 支配人ハ總會議ノ許可ヲ得ルニ非サルハ會社ノ取結ヒタル契約若クハ其工作ニ加ハリテ自己ノ利益ヲ謀ルコトヲ得ス且ツ總會議ニ於テ議定シタル給料、旅費、褒賞金并總株主ト一同ニ領受ス可キ利益ハ五分

配ノ外自余ノ所得ヲ受ルコトヲ得サル可シ

第四十二条 支配人タル者ハ社務ヲ支配スル保証ト為ス為メニ三十株以上ノ株數ヲ有セスンハ有ル可ラス而シテ其株數ハ之ヲ本社ニ預ケ置キ禁授受ノ三字ヲ付シタル本社ノ預リ証書ヲ受取り其在職中ハ決シテ其株數ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス

第四十三条 若シ支配人法律上ノ定規ニ背反シテ會社ヲシテ無効ナラシメ若クハ會社ノ取結ヒタル契約或ハ會社ノ決議ヲシテ無効ナラシメタル時ハ自カラ其責ニ任ス可ク且ツ詐欺ノ分派金ヲ分配シ若クハ其詐欺ノ

分配タルコトヲ知りテ之ヲ制セサル如キ重大ノ過失アルニ於テハ又其責ヲ免ヌカルコトヲ得ス

監察 委負

第四十四条 八會社ニ於テハ社中一般ノ利益ノ為メニ支配人ノ側ニ監察委負ヲ置キ支配人ノ所為ヲ監察セシムルヲ以テ緊要トス此ノ監察委負ハ會社ヲ設立シタルヤ否マホク其事業ニ着手セサル前ニ株主ノ總會議ヲ開キテ之ヲ撰任ス可ク其在職ノ期限及ヒ其權限等ハ預メ社則ヲ以テ之ヲ規定ス可シ

第四十五条 監察委負ハ毎年ノ總會議ニ於テ社員若クハ社外ノ者ヨリ撰任シテ該社ノ監督ノ職務ヲ施行セシム可キモノニシテ其職務ハ特ニ支配人ヨリ出シタル出納表及ヒ計簿書等ヲ検査シテ翌年ノ總會議ニ報告ヲ為スニ在リ故ニ若シ委負ヨリ其報告ヲ為サル前ニ總會議ニ於テ出納表及ヒ計簿書等ヲ許認シタル時ハ其許認シタル決議ハ其効ナカル可シ

第四十六条 監察委負ハ會社ノ諸簿冊在
金、手形及ヒ諸財産ヲ監査シ且ツ毎年ノ
報告書ヲ作り若シ會社ノ財産目錄中ニ

不規則及ヒ不精密ノヲアレハ之ヲ記シテ總會
會議ニ出ス可ク若シ又支配人ヨリ申立ル分
配金ニ付テ故障ヲ述フ可キ事由アレハ之
ヲ証明ス可シ加之始メテ撰任セラレタル監察
委員ハ其職ニ就クマ否マ直ニ會社設立
ノ方法、株數ノ体裁及ヒ其金額并會社ノ
財産及ヒ特別ノ利益等ニ関スル諸規則ノ法ニ
適シタルマ否マヲ監査ス可シ

第四十七條 故ニ監察委員タル者ハ總會議
ノ開日前三月内ニ諸帳簿ヲ受取り該社ノ
実況ヲ調査スルヲ得可ク又事ノ急ナル
時ハ何時ニ限ラス總會議ヲ招集スルヲ得

得可シ但シ委員ノ其職務ヲ行フニ付テ過失
有ル時ハ其責ヲ免ヌカルヲ得ス

第四十八條 法律上ノ定規ニ違ヒテ會社又
ハ社員ノ為メニ損失ヲ生シタルハ監察委員
ハ支配人ト共ニ其責ニ任ス可シ之レ監察委員
ハ總株主ノ名代人タルニ由リ若シ其職務上
ニ重キ過失アレハ自ラ其責ニ任セサルヲ得サ
レハナリ

利益金分配ノ方法并貸付滞金ノ
事

第四十九條 本社ノ諸雜費并損失補償ノ
金額及ヒ貸付滞金ノ金額ヲ除キ其余金

ヲ以テ本社ノ純益金ト定メ此ノ内ヨリ次条ニ
規定セル貯金ヲ引去リ残余ノ金額ハ總株
主ノ所有セル株數ニ準シテ之ヲ總株主ニ分
配ス可シ

但シ確實ナル抵當物若クハ保証人アル貸
付金ヲ除クノ外其返済期限ヲ過クル
既ニ六ヶ月以上ニ及フ者ハ總テ之ヲ貸付滞
金ト看做ス可シ

貯金割合ノ事

第五十条 右純益金ノ内ヨリ少クハ十分ノ一
ヲ引去リ之ヲ貯金ト為シ以テ非常ノ豫
備ニ供シ且ツ本社ヲシテ確實堅牢ナラシ

ム可シ

但シ貯金ノ金額既ニ資本金ノ十分ニ至
リシ後ハ復タ之ヲ純益金ヨリ引去ルヲ
要セスト虽モ若シ損失其他ノ事故アリテ
右ノ金額ヨリ減少スルハ再ヒ純益金中
ヨリ少クハ十分一ヲ引去リ遂ニ資本金十
分ニノ金額ニ復セシム可シ

事務取扱ヒノ事

第五十一条 本社ノ事務取扱ヒ時間ハ本店
若クハ支店ノ別ナク定期及ヒ臨時ノ休暇日
ヲ除クノ外毎日午前第九時ヨリ午後第
三時ニ至ル可シ

但シ休業ハ毎月何日ト定メ且ツ定式ノ
祝日祭日ニ限ル可シ

諸帳簿ノ事

第五十二条 書記及ヒ計簿課ニ於テ備
ハ置ク可キ諸簿冊左ノ如シ

第一 各株主ノ姓名簿

第二 財産目録

第三 利益金分配表

第四 出納表并損益比較表

第五 半期及ヒ毎月ノ實際報告書

株主姓名表ノ事

第五十三条 株主姓名簿ニハ左ノ數件ヲ記

載ス可シ

第一 各株主ノ姓名住所族籍及ヒ職業

第二 各株主ノ所有セル株數証書ノ番

号及ヒ其株數

第三 入社ノ年月日

第四 退社ノ年月日

第五十四条 此ノ株主姓名簿ニ記名セラレタ

ル者ハ即チ本社ノ株主タルカ故ニ本社ノ株主

タラント欲スル者ハ何人ヲ問ハス(外國人ヲ

除クノ外)各其姓名ヲ此ノ簿冊ニ登記セシ

ム可シ

第五十五条 若シ故ナクシテ此ノ姓名簿ニ記

名セラレシ或ハ妄リニ除名セラレシ或ハ既ニ退社
セシ者ノ記名ヲ故ナクシテ消除セサル如キ
有ル時ハ總株主ハ其事由ヲ書面ニ認メ該
地方ノ官廳ヲ經官府ニ照會シテ之ヲ修
正セシメントテ求ムルヲ得可シ

諸帳簿檢閲ノ事

第五十六条 監察委員ニ於テハ絶エズ本社
事務ノ監定ヲ為スト虽モ各株主ニ於テモ
亦本社ノ景況ニ通曉セサルヲ得サルカ故ニ
各株主ハ其總會議ヨリ少クモ十五日前ニ
本人若クハ代人ヲシテ本社所在ノ地ニ就テ
財産目錄、出納計筭書及ヒ監察委員

ヨリ出セル報告書等ヲ點檢スルヲ得可シ

諸計筭ノ事

第五十七条 本社ノ出納及ヒ其他一切ノ計筭
ニ関スル諸簿冊ハ定規ノ書式ニ從ヒ明細精
密ニ之ヲ記載シ之ヲ監察委員ニ出シ且ツ
各株主ノ點檢ニ供ス可シ

諸願、伺、届等ノ事

第五十八条 本社ノ諸願、伺、届、申告其他
總テ諸官廳ニ進呈ス可キ一切ノ文書ハ必ス
之ヲ正副二通ニ認メ之ニ社号ノ印章ヲ付シ
頭取及ヒ支配人ヨリ記名調印ヲ為ス可シ
但シ本社ノ名号ヲ用ヒタル為換手形及ヒ

約束手形ノ如キハ何人ニテ之ヲ取扱ヒタル
モ本社ノ任命ヲ受ケタル者ニ相違ナキニ
於テハ一切之ヲ本社ニ於テ取扱ヒタルモノ
ト看做ス可シ

外国ノ會社ト連合スルヲ得サル事

第五十九条 本社ニ於テハ官府ノ許可ヲ得ル
ニ非サレハ外國ノ銀行及ヒ外國人ノ會社ト
連合シテ為替ヲ為シ及ヒ其他ノ營業ニ
從事スルヲ得ス

平穩解社ノ事

第六十号 本社、都合ニ因リ總株主三分
二以上ノ協議ニ從ヒ平穩ニ解社セント欲ス

ル中、頭取及ヒ支配人ヨリ本社ノ名印ヲ以テ
其情由ヲ官府ニ申牒シ其許可ヲ得タル後
新聞紙及ヒ其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上
ニ公出ロス可シ

社中契約證書ノ事

第六十一条 以上列記シタル諸規則、外諸役
員ノ権限、分課、其給料、旅費ノ規定及ヒ
其褒貶進退等ニ関スル緊要事件ハ總
テ各株主ノ協議ヲ經タル社中ノ契約證書
ヲ以テ之ヲ規定ス可シ

規則更正ノ事

第六十二条 本社、規則中ニ規定セル所ノ

各款ハ株主總會議ノ決議ヲ終テ官府ノ承認ヲ受ケタルニ於テハ何時ヲ問ハス之ヲ更正増減スルヲ得可シ

右ノ条々株主等ノ衆議ヲ以テ相定候ニ付証據トシテ私共一同姓名ヲ記シ調印致候也

年号月日

但シ此ノ規則ハ株主等ノ協議ニ因リ之ヲ草定シ追テ頭取支配人等定マリシ上本紙正写ノ二通ハ左ノ奥書ヲ加ヘテ之ヲ官府ニ差出ス可シ

右鉄道會社規則ハ之ヲ三通ニ認メ本紙一通正写一通ハ之ヲ官府ニ上呈シ他ノ一通ハ同文言ニテ恤ニ之ヲ本社ニ藏メ置候仍テ其証據トシテ私共自カラ姓名ヲ記シ調印致候也

年号月日

鉄道會社支配人

姓名印

同 頭取

姓名印

官府宛

本社ニ藏メ置ク可キ正写ノ奥書ハ左ノ如シ

114
A2857
3

右ハ鉄道會社規則本紙ノ正写ニシテ其本
紙并正写一通ハ規則ノ通り之ヲ官府ニ
差上候因テ其証摠トシテ私共自カラ
姓名ヲ記シ調印致候也
年号月日 鉄道會社取

姓名印

同支配人

姓名印

鉄道會社創立証書文例

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄

大日本政府ニ於テ制定施行スル所ノ布告
布達ヲ遵奉シ大日本政府ノ鉄道架設ノ
費用ニ供センカ為メニ鉄道會社ヲ創立セ
ンコヲ謀リ此創立証書第五條ニ連署セル
各株主等同心協力シテ此創立証書議定
シ候也

第一條 本社ハ所謂無名會社ナルヲ以テ其
目的ト為ス所ノ事業ニ從ヒ之ヲ鉄道會社ト称
ス可シ

第二條 當會社ノ本店ハ何縣下第一大区一小区
一番地ニ於テ之ヲ設置ス可シ

但シ本社ノ都合ニ因リ株主ノ總會議ヲ經テ支店ヲ開クコト有ル時ハ預メ其地名等ヲ詳記シ官府ニ上申シテ其許可ヲ受ケタル後ニ於テス可シ

第三条 本社ノ資本金ハ先ツ之ヲ三百万円ト定メ一千円ヲ以テ一株ト為シ總計三千株ト定ム可シ

但シ株主ノ多クシテ後ヒ資本金モ亦増減スルコト有ル可シ

第四条 本社ノ永続期限ハ其開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ滿若干年ヲ以テ限リト為ス可シ

第五条 本社ノ株主タル者ノ姓名住所并各株主ノ擔當スル株數及ヒ其番号等ハ即チ左ノ如シ

金額	擔當株數	住所	株主、姓、名、族、籍
一、一、四	<small>一番又二番ヨリ番ニ至ル 株一番一者</small>		
總計一、一、四	總計一、一、株		總計一、一、人

第六条 本社ノ株主タル者ハ總テ内國人ニ限ル可シ

第七条 此創立證書ノ條款ハ株主總會議ノ決議ヲ經テ官府ノ許可ヲ受ケタルニ於テハ之ヲ

更正スルヲ得可シ

但シ其更正スル事件ハ資本金ノ増減本社
ノ移轉及ヒ分社ノ開設等ニ限ル可シ而シテ其
更正シタル條款ハ最初ノ創立證書ニ規定セ
ル条規ノ如ク各株主一同之ヲ遵守ス可キモノ
トス

第八条 此創立證書ハ諸般ノ条規成規ヲ遵奉シ
テ本社ノ事業ヲ営ミ株主一同ノ利益ヲ謀ル為メニ
確定シタル者タルカ故ニ私共一同姓名ヲ記シ調印
致候也

年号月日

各株主

連名印